

【日本三薬師第一之霊場】

豊楽寺 国宝薬師堂



大豊町、大田の山里。

豊かな緑の色たちが、
遙か昔の歴史を誘う。

国宝薬師堂（本堂）

薬師堂（国宝）は桁行五間、梁間五間で平屋建て。屋根は、入母屋造でこけら葺である。円柱状に舟肘木を置いた素木造りの簡素な建物であるが、木割は雄大で、緩い勾配の極を配した軒の出は深く、快い照りのある屋根、美しい棟と隅の反り、さらに、豊かな軒の曲線など藤原時代後期の特色を表し、その全容は荘重であつて然も軽快、優美である。外陣の化粧屋根裏が二重になつており、非常に珍しいものである。また薬師堂は飽のない時代の建物であるため鉦と「のみ」を使つて細工したもので、觸つてみるとそれがよく分かる。

後世の手が加えられているが平安時代に造られた四国最古の建物である。



豊楽寺への参道には行基の休憩したという腰掛石がある。



薬師堂の前には巨巖の手水石がある。文政六年吉野川の太田瀬から三年がかりで、近郷近在の民が引き上げた四国でも最大級の手水石と云われている。



本堂内陣にある須弥壇両端の嵌板の香狭間は建築当初のもので美しくよく平安時代の特色を表している。

本堂（薬師堂）は四国でも最も古い建築物で本県唯一の国宝である。



薬師堂は堂内に安置する伝釈迦如来像の胎内墨書銘によつて仁平元年（一一五一）に造立されたことがわかる。永徳二年、長享二年に修復された後、天正二年（一五七四）と寛永十四年（一六三七）の二度にわたつて大風によつて大破したが、いずれも直ちに修復された。山内忠義による寛永の大修理の際、正面に附いている一間の向拝が付け加えられた。

平安の木仏

（国重要文化財）
（非公開）



豊楽寺その歴史

北は伊予へ、東は阿波へ、南すれば土佐へと四国の中央部、徒歩で往来した古来の交通の要衝に豊楽寺がある。豊楽寺は古来より「柴折薬師」と呼ばれ、愛知県鳳来寺「峰薬師」、福島県常福寺「獄薬師」と共に、日本三薬師と称される。

神亀元年(724)の開創、行基が四国中央の大豊に来た際、如来有感の霊場とその身に感じ、自ら薬師、釈迦像を刻み一寺を建立した。聖武天皇はこれを大いに喜ばれ、薬師経説の「資求豊足心身安楽」より大田山大願院豊楽寺の称号を賜った。

本院は草創の昔より法灯大いに栄え、山腹には大田寺、南大門、極楽寺、蓮華院等の堂塔伽藍が立ち並び隆盛を極めた。

以来、幾多の天災や明治の廃仏毀釈を乗り越えて豊楽寺はその法灯を今に伝えている。

静寂の中…

時間を忘れたかのように語り継ぐ。



天井 内陣の棹縁天井はこの種の天井の最も古いものの一つといわれている。



瑠璃光殿と大師堂



日光菩薩立像 (国重要文化財)



月光菩薩立像 (国重要文化財)

共に平安時代後期の作。



木造阿弥陀如来坐像 (国重要文化財)

中尊の右に安置されるヒノキの一木造、彫眼の像で、三尊のうちでは一番古く、首が猫背でずんぐりとした体部に落ち込むようにつくられ、頭部を前に突き出した古様なつくりである。胎内に仁平元(一二五二)年薬師堂造立と多数の結願者の名が墨書されている。



木造薬師如来坐像 (国重要文化財)

薬師堂の中尊で、ヒノキの一木造、彫眼の像おだやかで明るい顔立ちとのびやかな姿態の表現は平安時代後期のものである。



木造阿弥陀如来坐像 (国重要文化財)

中尊の左に安置されるヒノキの一木造、彫眼の像で、中尊と同じつくりであるところから、作者、時代とも中尊と同じであろう。



豊楽寺への参道には行基の休憩したという腰掛石がある。



薬師堂の前には巨巖の手水石がある。文政六年吉野川の太田瀬から三年がかりで近郷近在の民が引き上げた四国でも最大級の手水石と云われている。



本堂(薬師堂)は四国でも最も古い建築物で本県唯一の国宝である。



平安の木仏 (国重要文化財) (非公開)



交通のご案内

- 高知自動車道、大豊 I.Cより車で20分
- JR土讃線、大田口駅下車、徒歩30分
- JR土讃線、大杉駅下車、車で15分

当山年中行事

- | | |
|-----------|------------|
| ● 一月一日～三日 | 新春祈祷会 |
| ● 二月三日 | 節分・星祭大護摩厳修 |
| ● 旧二月十五日 | 涅槃会 |
| ● 旧四月八日 | 花まつり |
| ● 旧七月六日 | 薬師大祭 |
| ● 旧七月十六日 | 千体供養 |
| ● 大晦日 | 除夜の鐘 |

真言宗 智山派

大田山 大願院 豊楽寺

〒789-0234 高知県長岡郡大豊町寺内314

TEL 0887-73-0029 FAX 0887-73-1606